

6 課

8月8日

無限の可能性



安息日午後 8月1日

暗唱聖句

すべてこれらのものは、一つの同じ御霊の働きであって、御霊は思いのままに、それらを各自に分け与えられるのである。(Iコリント 12: 11、口語訳)

これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。(Iコリント 12: 11、新共同訳)

今週の聖句

Iコリント 12: 12、マタイ 3: 16、17、Iコリント 12: 7、Iコリント 1: 4~9、マタイ 25: 14~30

今週のテーマ

神をあかしするようにと、私たちは召されています(使徒 1: 8、イザ 43: 10)。あかしをすることは、選ばれたわずかな人だけが持つ特別な霊の賜物ではありません。それは、クリスチャン 1 人ひとりに対する神の召しです。

聖書は、私たちが神の前で召されていることを説明するために、さまざまな表現を用いています。「世の光」(マタ 5: 14)、「キリストの使者」(IIコリ 5: 20)、「王の系統を引く祭司」(Iペト 2: 9)にならなければなりません。あかしと奉仕に召しておられるこの同じ神が、その務めに必要な力を私たちに身につけさせ、霊的な賜物を信者 1 人ひとりに分け与えてくださいます。神は資格を持っている人を召されるものではありません。召した人に神が資格をお与えになるのです。信じるすべての人に無償で救いが与えられるように、神の賜物も神によって無償で与えられます。

私たちが神に献身し、人生を神の奉仕にささげるとき、奉仕の可能性は無限です。「自己を忘れて心の中に聖霊が働く余地を与え、神に全く献身した生涯を送る者の有用さには限りがない」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング 新装版』99 ページ)。

私たちは今週の研究において、聖霊の賜物によって私たちの奉仕の可能性が無限であることを学びます。

弟子たちが互いにどれほど違っていたか、考えたことがありますか。彼らの生い立ち、個性、気性、賜物は、大きく異なりました。しかし、これは教会にとって弱みでなく、強みでした。徴税人マタイは、几帳面で正確でした。それとは対照的に、ペトロはしばしば早口で、情熱的かつ衝動的でしたが、指導者の素質も生まれつき持っていました。ヨハネも、心は優しいのにずけずけものを言う人間でした。アンデレは社交的な人で、周囲にとっても気を配り、ほかの人に対して敏感でした。トマスには、疑問を持つ生まれつきの傾向があり、しばしば疑いました。このような弟子たちは、それぞれ異なる個性や賜物を持っていましたが、神をあかしすることにおいて力強く神に用いられました。

問1 1コリント12:12、13、18～22を読んでください。私たちはこれらの聖句の中に、キリストの体である教会では異なる賜物を持つ人たちが必要であることについて、どのようなことを見いだせますか。

神は、異なる生い立ち、異なる才能や能力を持つ人たちを迎え入れ、奉仕に必要な賜物を彼らに与えることを喜ばれます。キリストの体は、全員がそっくりな同質な人間の集団ではありません。同じ背景を持ち、全員が同じことを考える人たちの社交クラブでもありません。それは、異なる賜物を持ちながらも、キリストと聖書に対する愛で一致している人々、キリストの愛と真理をこの世に伝えるために献身している人々のダイナミックな運動です（ロマ12:4、1コリ12:12）。キリストの体を構成する者たちは、異なる賜物を持っていますが、1人ひとりが貴重です。キリストの体を健康に機能させるには、1人ひとりが欠かせません。ちょうど目、耳、鼻が異なる機能を持ちながらも体にとって必要であるように、あらゆる賜物がやはり必要なのです（1コリ12:21、22）。

もし人間の体についてじっくり考えてみるなら、とても小さな部位でさえ重要な役割を持っていることがわかります。まつ毛のことを考えてみてください。まつ毛のように一見重要でないと思える物がなかったとしたら、どうなるでしょうか。ほこりの粒が私たちの視界をぼやけさせ、結果として、取り返しのつかない損傷を目に与えるかもしれません。最も「重要でない」ように見える教会員も、キリストの体の不可欠な部分であり、聖霊によって賜物を与えられています。これらの賜物をすっかり神におさげするとき、私たち1人ひとり、永遠に及ぶ変化を生み出すことができるのです。

Iコリント12:11、18、エフェソ4:7、8、ヤコブ1:17によれば、神はあらゆる賜物の源であり、「完全な賜物はみな……御父から来るのです」。従って私たちは、神が私たちに最もふさわしい聖霊の賜物を与えてくださること、また神の働きに貢献し、神のみ名に栄光を帰すためにその能力を最大限に用いてくださることを確信し、安心することができます。

問2 マルコ13:34、Iコリント12:11を読んでください。神はだれに霊的な賜物をお与えになるのですか。

聖書は、はっきりしています。神は、福音をほかの人に伝えることに関して、私たち1人ひとりに特別な任務を用意しておられます。家を僕たち^{しもべ}に預け、管理するようと言いつけて旅に出る主人のたとえ話をイエスはなさいましたが、その中で、家の主人は僕たちに仕事を割り当てています(マコ13:34)。1人ひとりに任務があり、神はすべての人に、神の務めや彼らが召された働きを成し遂げるために霊的な賜物を与えてくださるのです。私たちがキリストに献身し、バプテスマによってキリストの体の一部になるとき、その体のために奉仕をし、この世にあかしができるよう、聖霊が賜物を授けてくださいます。

1903年のこと、エレン・G・ホワイトは、ある男性に手紙を書き、神が彼にお与えになっている賜物を奉仕の中で使うように勧めました。「私たちはみな神の家族であって、全員に多少なりとも神からの賜物が託されており、それを使うことに対して責任があります。私たちの才能が大きくても、小さくても、神の奉仕のためにそれを使うべきです。また私たちは、すべての人が各自に託された賜物を用いる権利を認めるべきです。

身体上の強みであれ、知的能力であれ、霊的長所であれ、それらがどんなに小さくても、決して過小評価してはなりません」(手紙260、1903年12月2日、英文)。

問3 使徒言行録10:36~38、マタイ3:16、17、使徒言行録2:38~42を読んでください。これらの聖句は、バプテスマの際に聖霊が与えられるという約束について、どのようなことを教えていますか。

神はイエスがバプテスマを受けたとき、聖霊を与えられました。聖霊を受けたイエスはこの世に対する働きができました。それと同じように、私たち1人ひとりには、バプテスマの際に聖霊が与えられると約束されています。神は私たちに、そのことの明確な確信を持ってほしいと願っておられます。

問4 1コリント12:7、エフェソ4:11~16を読んでください。神はなぜ、信者1人ひとりに霊的な賜物を授けてくださるのですか。これらの賜物の目的は何ですか。

霊的な賜物は、いくつかの目的を果たします。神がそれらをお与えになるのは、神の働きを成し遂げるために教会を育て、強めるためです。霊的な賜物は、この世における神の使命を果たそうとしている一致した教会を発展させることを目的とするものなのです。聖書記者たちは、神がご自分の教会にお授けになる霊的な賜物の霊を挙げています。例えば、奉仕すること、宣教すること、教えること、励ますこと、施すことなどです。聖書はまた、少し例を挙げるだけでも、もてなし、憐れみ、慈善、快活さといった賜物についても述べています。より完全なリストを確認するには、ローマ12章と1コリント12章を読んでください。

霊的な賜物と生まれつきの才能の関係について、あなたは疑問を抱いているかもしれません。霊的な賜物というのは神から授けられる資質で、教会における特別な務めやこの世への奉仕のために、聖霊が信者1人ひとりに与えてくださるものです。それらには、聖霊によって清められ、キリストのための奉仕で用いられる生まれつきの才能も含まれるかもしれません。一方生まれつきの才能は、いずれも神から与えられたものですが、そのすべてがキリストの奉仕において用いられるわけではありません。

「特別の聖霊の賜物だけが、このたとえの中で表示されているタラントではない。タラントというのは、先天的であろうが、後天的であろうが、一般的のものであろうと霊的のものであろうと、すべての賜物と才能のことである。これを、すべて、キリストのための奉仕に用いなければならない。わたしたちは、キリストの弟子になったのであるから、自分自身と持っているすべての物をささげて、キリストに従うのである。すると、キリストは、これらの賜物を清め高尚にして、再びわたしたちに返してくださるから、わたしたちは、同胞を祝福するためにそれを用いて、神の栄光をあらわすようになるのである」(『希望への光』1313ページ、『キリストの実物教訓』302、303ページ)。

神はまた、特別な賜物も設けられました。例えば、預言の賜物や、牧師や長老といった教会内の具体的な役職などです。牧師や長老はキリストの体の中の教師であり、教会員1人ひとりを育て、奉仕に必要な力を身につけさせます(エフェ4:11、12参照)。すべての教会指導者の役割は、教会員1人ひとりが各自の霊的な賜物を発見できるように手助けし、キリストの体を造り上げるためにそれらの賜物を使うように教えることです。

問5 Iコリント1：4～9とIIコリント1：20～22を読み比べてください。これらの箇所は、神の約束について、とりわけキリストの再臨前の霊的な賜物について、どのようなことを教えていますか。

神は、主の再臨の直前、あらゆる霊的な賜物をご自分の教会が現すと約束しておられます。神の約束は確かです。神は、私たち1人ひとりが自分に与えられた賜物を理解できるように導く聖霊という証人を、私たちの心の中に与えてくださっています。賜物をお与えになるのは神であり、ご自分の霊によって私たちにその賜物を明らかにしてくださるのも神なのです。

問6 ルカ11：13、ヤコブ1：5、マタイ7：7を読んでください。もし神が私たち1人ひとりに与えてくださった賜物を見つけたいと思うなら、どうしなさいと、神は私たちに勧めておられますか。

私たちが神に献身し、私たちにすでに与えられている賜物を明らかにしてくださいと神に求めるとき、私たちは聖霊の賜物を受けます。私たちの心から高慢さがなくなり、イエスにお仕えすることが優先事項になるとき、主の霊は、私たちの霊的な賜物をはっきり認識させてくださいます。「信仰と祈祷によって、弟子たちが神の働きのために全く自分たちを服従させた時に、初めて、神の霊が豊かに彼らの上に降り注いだのである。こうして、特別の意味において、天の財産が、キリストに従う者らにゆだねられたのである。……賜物は、すでに、キリストにあってわたしたちのものであるが、それを実際に受けることは、神の霊をわたしたちが受けるか否かにかかっている」(『希望への光』1313ページ、『キリストの実物教訓』301、302ページ)。

霊的な賜物(Iコリ12：4～6参照)は、私たちが効果的に神にお仕えできるように、神から授けられた資質です。伝道の働きは、私たちが自分の賜物を発揮できる全般的な領域であり、さまざまな伝道活動は、私たちが自分の賜物を用いる具体的な場です。霊的な賜物は、完全に発達した状態で与えられるものではありません。聖霊があなたに、いずれかの奉仕の領域を印象づけてくださるとき、伝道活動を通してあなたの賜物を活用する具体的な働きへ導いてくださるよう、祈ってください。

あなたの賜物は具体的に何ですか。さらに重要なことに、あなたは主の奉仕のために、それらの賜物をどのようにして磨くことができますか。

問7 マタイ 25：14～30 のタラントンのたとえ話を読んでください。この物語の中で、あなたの目につく最も重要な考えは何ですか。最初の2人の僕は、なぜ主人（神）からほめられ、最後の僕は、なぜ非難されたのですか。このたとえ話は、私たちの能力を使うことについて、どのようなことを教えていますか。とりわけ、マタイ 25：29 に注目してください。

主人は僕1人ひとりに、「それぞれの力に応じて」（マタ 25：15）タラントンを与えました。各自が異なる額を受け取ったのです。与えられたタラントンをいかに投資するか、あるいはいかに用いるか、それぞれの僕に選択権がありました。ここで重要なのは、彼らに与えられたものが彼ら自身の所有物ではなかったという点です。それは、それを預けられた方のものでした。

主人の関心事は、だれが才能において優れているか、劣っているかということではありませんでした。つまり、それぞれの僕にどれだけ多くの才能が与えられているかではなかったのです。主人の関心は、与えられたものを用いて1人ひとりが何をしたかでした。

パウロはこのことを次のように表現しています——「進んで行く気持があれば、持たないものではなく、持っているものに応じて、神に受け入れられるのです」（Ⅱコリント 8：12）。神にとって、あなたが何を持っているかは、さほど重要ではありません。重要なのは、持っているものであなたが何をするかです。

主人（神）は最初の2人の僕をほめました。彼らが忠実に自分のタラントンをういたからです。使うことで、彼らのタラントンは増えました。「悪い」僕は、主人から与えられたタラントンを使わず、それは増えませんでした。「奉仕の法則が、わたしたちを、神と同胞とに結びつける鎖となるのである」（『希望への光』1312 ページ、『キリストの実物教訓』300 ページ）というのは、永遠の真理です。不忠実な僕は、奉仕する機会を逃し、奉仕する能力を最終的に失ってしまいました。

み名の栄光のために神から与えられた賜物を私たちが用いるとき、その賜物は増え、成長します。神から与えられた賜物を、あなたはどうやって見つけることができるでしょうか。伝道のために神があなたに働いてほしいと望んでおられる領域を明らかにしてくださいと、心を低くして神に求めてください。神があなたにはっきりわからせてくださったなら、神の働きに参加してください。あなたの賜物は、使うに従って成長し、あなたは神の奉仕の中に喜びを見いだすでしょう。

このたとえ話は、神から与えられたものを用いてあなたが行っていることについて、何を教えていますか。

参考資料として、『キリストの実物教訓』第25章「タラントの正しい使い方」を読んでください。

霊的な賜物に関する聖書の教えを正しく理解すると、教会に一致がもたらされます。私たち1人ひとりが貴重であり、キリストの体の必要な一員であるという認識が、一致をもたらすのです。キリストの使命を成し遂げるには、すべての教会員が必要です。奉仕のために、すべての教会員に賜物が与えられています。

「1人ひとりに、主人のためになすべき働きが与えられている。特別な賜物、つまりタラントンが、僕1人ひとりに託されているのである。『それぞれの力に
応じて、一人には五タラントン、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預け……た』。すべての僕が、自分に責任のあるものを託されており、そのさまざまな委託物は、私たちのさまざまな能力に釣り合ったものである。神はご自分の賜物を与える際に、えこひいきでなさらなかった。神は、ご自分の僕が持っていると思われる力に従って、タラントンを分け与えられたのである。そして、神は相応の報いを期待しておられる」(『教会への証』第2巻282ページ、英文)。

霊的な賜物が与えられるのは、神の栄光のためであって、私たちの栄光のためでないことも忘れないでください。み名を高め、み働きを推進させるために、神は霊的な賜物をお与えになったのです。

話し合いのための質問

- ① 私たち1人ひとり神から賜物を授かっているということについて、さらにじっくり考えてください。このことは、あなたが所属する教会にとって、どのような実際の意味を持っていますか。また、教会員1人ひとりが奉仕に関わることに對して、どのような変化をもたらすでしょうか。
- ② ほかの教会員の賜物がどのようにあなたの祝福となったか、また、あなたがどのように自分の霊的な賜物を見つけたか、安息日学校のクラスで発表し合ってください。あなたの賜物は何だと思えますか。ほかの人を祝福するために、それらをどのように用いていますか。
- ③ 私たちの賜物は、用いることによって成長します。今週の研究は、そのことを指摘していました。あなたの人生を振り返ってみて、神からあなたに与えられた賜物で、神のみ名に栄光を帰すために用いて成長したものが何かありますか。